



鬼の面：肌勢俊一

特 集

パワフル！ カリフォルニア研修記

新しい年が始まりました。あけましておめでとうござります。そして、いつもパンジーだよりを読んで下さっている方、日頃のご協力ありがとうございます。

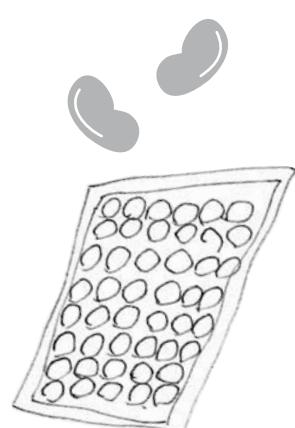
昨年度は、自立支援法にあけられた1年でした。知的障害を持つている人たちの地域生活が維持できるのか、生活の質を保障する運営ができるのか、一時は暗澹とした気持になりました。しかし、そういう時期だからこそ、「何を大切にするかを見極める必要があることに気づいた」と前号のパンジーだよりに書かせて頂きました。

そんな折り、タイムリーにカリフォルニア研修のツアーがあったので、思い切って参加してきました。私にとっては、10年ぶりの訪問でした。10年前、当事者のパワフルなのに驚き、それを支える制度と実現のためのプログラムに感心しました。その時学んだことが、パンジー版「元気のできる話」や「当事者の講演」として定着しています。今回の訪米では、制度は以前と同じですが、「地域でその人らしく暮らす」事が、多くの人に広がっているのを感じました。また、当事者の人権を守るポスト等に当事者が就いていました。

日本は、当事者主体や自己決定の理念はあります。それが、当事者の暮らしにどこまで浸透しているかを考えると、まだまだ点としての存在であると思います。それは、例えば、結婚している当事者が多いアメリカと、まだまだ珍しい日本を比べた時に、はつきりわかると思います。

今回、うれしいことに、1991年に来日したコニー（ピープルファーストのリーダーの一人）とバーバラ（支援者）に再会できました。二人は、私がピープルファーストに関わり始めた原点です。この原稿を書きながら、二人との再会は、私に、「原点に戻りなさい」と伝えていくように思えてきました。この10数年間、やみくもに活動したことや、状況の中で変更せざるを得なかつたこと、やり残した事などがたくさんあります。そのひとつ一つをつなぎ合わせながら、気持ちを新たに、知的障害を持つ人たちの権利とその人らしい暮らしの実現に取り組みたいと思います。今後ともよろしくお願ひします。

(林淑美)



「知的障害者の自立生活」 実現に向けて 学び・語り合い一緒に楽しむ9日間

4日目 午前 インアライアンス（就労支援の事業所）へ。
 午後 プロテクション・アンド・アドボカシーへ
 オプションズ・イン・サポートド・リビング（援助付生活の事業所）へ
 夜 オプションズの利用者と職員と交流会

5日目 アカプルコ（メキシコ）へ

6日目 インクルージョン・インターナショナル世界会議へ

7日目 メキシコシティー観光・ロサンゼルスへ

8~9日目 日本へ



今、ケータイの某社は、「CUSTOMER SATISFACTION」と盛んにCMを流している。「お客様満足度」が高いとアピールしているわけだが、アメリカで、同じフレーズにお目にかかるとは、思ってもみなかつた。カリフォルニア州発達障害局で説明を受けているときに、表紙に大きく「SATISFACTION」と書かれたパンフレットが配られた。IPP（自立生活支援計画）に基づき提供されているサービスに対する、利用者に満足しているのか聞くためのパンフだった。

文字はほとんどなく、分かりやすいイラストで構成



1日目 サンフランシスコへ・サンフランシスコ観光

2日目 PDS（重度の知的障害者の日中支援の事業所）へ。

3日目 午前 アルタ・リージョナル・センターへ
 午後 カリフォルニア州発達障害局へ
 夜 キャピトル・ピープル・ファーストと交流会

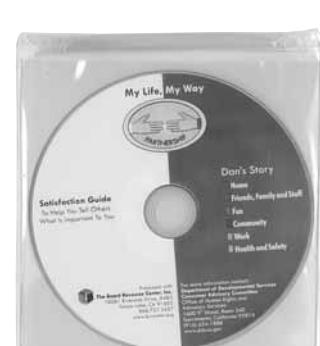
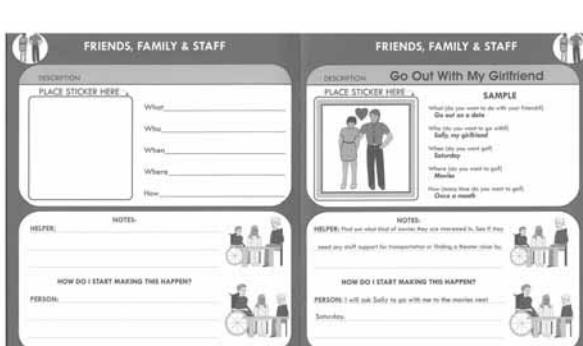


SATISFACTION!

されたいた。当事者にとつて本当に分かりやすいものを、行政が本気でつくっていることに驚いたが、それよりもむしろ「満足していますか」と問いかける段階にあるのだ。改めて思い知らされた。私たちは、「誰もが地域で自分らしく暮らす」ことを目ざして活動している。しかし、「障害者自立支援法」が象徴しているように、日本では当事者の自己決定がないがしろにされ、「入所施設」という選択肢が、当事者のまわりから消えることはない。

だが、アメリカは違う。「入所施設は人権侵害」というオルムステッド判決が下され、カリフォルニア州においては、当事者が望む生活を保障するエンタイトルメント（サービス受給権）が確立し、それを対して予算もつく。何よりも権利保障としての視点で、当事者の「生活の質」に目が向けられている、この違いは大きい。そのためか担当者の「施設解体」の話によどみがなかつた。

（福岡）



アメリカで会った当事者は、皆堂々としていた。支援者も同様である。私たちは、「今の生活に満足していますか」とためらいもなく聞けただろうか。限られた選択肢しか示せないこの国は、やはり貧しい。

結局のところ、当事者の意志は置き去りにされる。「地域生活」は誰のためのものなのか。その意識レベルの差が、当事者の生活の質に跳ね返っている。

(3)

正しい方向に歩んできた カリフォルニア州と 理念が定まらない日本

コミュニティサポート研究所
齋藤明子

これまで8回カリフオルニア州に研修旅行に行きました。そして今回の旅行でもカリフオルニア州の本人中心のシステムが揺らいでいないことを確認しました。例えば、これまでも発達障害局、リージョナル・センター（市の障害者福祉課のようなどころ）、プロテクション・アンド・アドボカシー（権利擁護センター）には当事者職員がいました。常勤でしたのが仕事の内容がはつきりしない「お飾り」的存

『バデイシステムの構築とIPPの作成』というプロジェクトを実施しました。これまでの当事者運動は、自己主張、自己決定の推進でした。ここ10年くらいの間にかなりの成果をあげてきたと思います。これからは具体的な問題（たとえばホームヘルプサービスをもつと欲し

度を投げ出してしまいました。カリフォルニア州もその間、破産したと言われるほどの逼迫を経験しました。しかし、予算がないんだから当事者職員のクビを切りましょうとか、本人の希望を無視してサービスを切り詰めました。う、ということにはなりませんでした。この違いは何なんでしょうね？

在でした。しかし、今回はどこでも発達障害者は障害のない同僚と肩を並べていそがしく働き、自分のデスクを持つて、本を出したたり実際の相談にのつたりしていました。予算が不足していまして、日本は支援費制

いとか、こんなサービスは無いかな）について仲間の相談にのるバディ＝当事者リーダーを養成できないうかなど、と思って、ささやかですが取り組んでみました。パンジーさんも参加してくださいました。その時の



BOOK



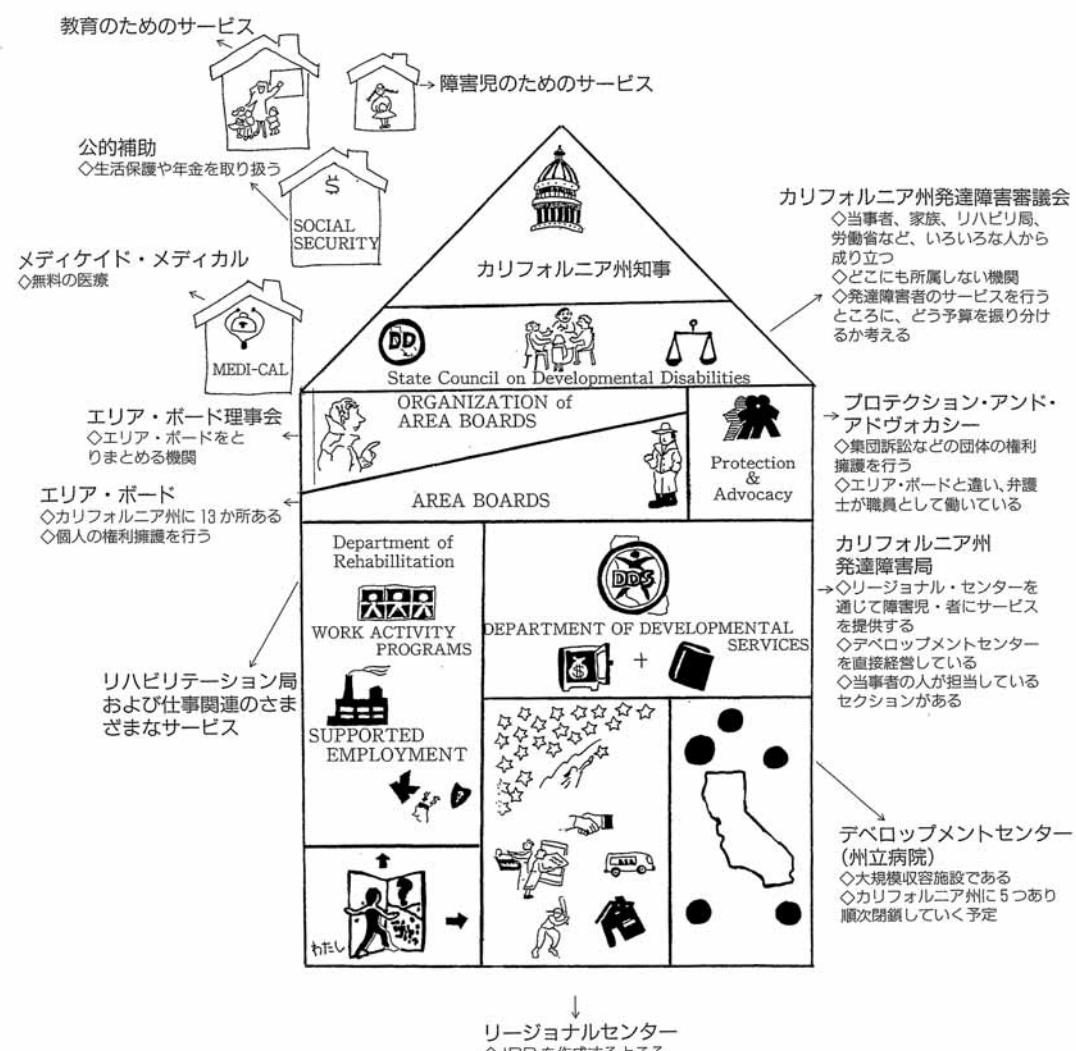
私たち、遅れているの?
増補改訂版一知的障害者はつくられる
カリifornia・ピープルファースト編
秋山愛子・斎藤明子訳

定価 1800 円+税

親、施設職員や教員など周囲の人々の期待の低さや抑圧的環境が知的障害者の自立と成長を妨げていることを明らかにし、本当に必要なサービス、制度を提言した報告書『遅れを招く環境』の翻訳と、増補で、その後進展したカリフォルニアの当事者中心のサービスを紹介。

カリフォルニア州の発達障害システム

(知的障害者に州のシステムを説明するときの図)



み 見てきた! とう じ しや せい かつ し ごと 当事者の生活、仕事!

1
にちめ
日目

「さあ、出発!」



くうこう
「空港でライターも水も
みんな捨てさせられた。ビックリした」
ひこうき
なか
「飛行機の中では、『プリーズ、ワイン』
い
って言ったら、ワインがきた」

ばくらの
えいご
英語が通じた!

ひこうき
なか
じかん
がまん
して、
着いてもライターがないから
すぐに、吸えなかつた

やっとタバコ吸えた



サンフランシスコにて

はし
えいが
「あの橋は、映画にもよく出てるで！」
ゆうしょく
ちか
「夕食は近くのスーパーで買って、
えんかい
た
そのスーパーで宴会みたいに食べた」

2
にちめ
日目

「メキシシティ観光」



あさ
じ
で
はや
「朝4時にホテルを出た。めっちゃ早かった」
のぼ
「メキシコのピラミッドに登った」
くうき
すく
「空気が少なくて、
のぼ
ひと
登った人は『ハー、ハー』言っていた」

ゆうしょく
夕食は、タコスのレストランへ。
テキーラを飲んだ。
ソースは、むちゃくちゃ辛かった

START

しゅっぱつまえ
出発前

えいご
しんばい
「英語が心配やなー」

せいかつ
「どんな生活してんのかな」

かん
「グループホームはどんな感じやろ」

しごと
「どんな仕事してんのかなー」

にゅうしょしせつ
「入所施設はあんのかなー」

にしむらみのる
おかもとさとる
やまだひろし
かわのあきひろ
西村実、岡本智、山田浩、河野明裕と
にん
しんしゃ
ごうけい
にん
さんか
3人の支援者、合計7人で参加しました。

しゅっぱつまえ
かいべんきょうかい
ひら
出発前に、3回勉強会を開きました。

GOAL

こんかい
りょこう
今回の旅行はどうでしたか。

えんじょつ
せいかつ
いっかい
「アメリカみたいな援助付き生活を、一回してみたい」

えんじょつ
せいかつ
こま
「あの援助付き生活は、いいな。困ったときに、

たす
助けてもらえる」

はたら
「働いているときも、ずっと支援者がいてるもの
おも
いいと思う」

はたら
「あれやったら、みんな働く。
はたら
じゅうど
ひと
おお
アメリカで働いていたのは、重度の人が多かった」

「また、チャンスがあれば行きたい」

ぼく
つぎ
にほん
はんたいがわ
い
「僕は次、日本の反対側のブラジルに行ってみたい。」

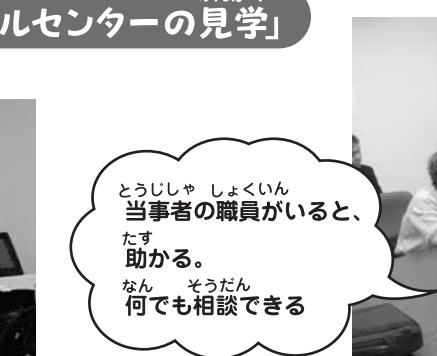


おおさか
であ
~大阪でまた出会ったよ~

- ・ ジュリアさん、ニコールさん、
- ・ シャーリーンさんが来日され
- ・ 1月29日に交流会がありました。

3

にちめ 日目 「アルタ・リージョナルセンターの見学」

「カリフォルニア州
発達障害局の見学」

とうじしゃ しょくいん
「当事者が職員にいた。
くるま の
車いすに乗っていた」

とうじしゃ
「ロペスさんという当事者が
しょくいん はたら
職員で働いていた。

よいサービスをしているか、
せいかつ
よい生活をしているか
い
チェックしてると言ってた」

「ピープルファーストの
当事者と交流会」

なかよ
「コニーさんと仲良くなった」
おとこ とうじしゃ ひと けっこん
「男の当事者の人は結婚して
こども い
子供もいると言っていた」

2

にちめ
日目

「PDSの見学」リサとジョーの話。



むかし にゅうしょしせつ
「ジョーは昔、入所施設にいた。

いま しょん
今はリサの支援で、レストランで
はたら 働いている」

いまひとり す
「ジョーは今一人で住んでいるけど、
となり へや しょんしゃ す
隣の部屋に支援者が住んでいる。

えんじょつ せいかつ
援助付き生活（サポートドライブ）
い
と言うらしい」

ぼく せいかつ しゃしん
「僕のグループホームの生活の写真を
み わ
見せた。分かってくれて嬉しかった」

4

にちめ 日目 「インアライアンスの見学」



はたら ひと けんがく い
「ピザハットで働いている人の見学を行った。 ジョブコーチ
ぼく はたら しょんしゃ ひと はなし
僕も働いていたことを、支援者の人々に話をした」

「オプションズの見学」



ティムのサポートドライブを見に行った

いっしょ す
「一緒に住んでいるルームメイトは、
がっこ せんせい ひと
学校の先生をしている人やった。
えんじょつ せいかつ
援助付き生活っていいなーとおもった」

「オプションズの支援で近くに住んでいる
とうじしゃ いえ けんがく
当事者の家を見学した」

せんよう 「専用のスポーツジムがあった。みんながほしい」

ティム

いえ
ティムの家。
ひろ
すごく広い!

6

にちめ 日目 アカプルコ観光

ぼく なか はい
「僕らは中に入らなかったけど
せかいかいぎ かいじょう い
世界会議の会場へ行った」

「みんなと写真を撮ったり、
みやげ か
Tシャツをお土産に買ったりした」



がけ うえ
崖の上から
ご
飛び込みをするのを
み
見に行った



「プロテクション・アンド・アドボカシーの見学」



ちゅうしょく あと
「昼食の後のデザートに
おお
大きなケーキをプレゼントしてくれた。
あま おお た
甘くて大きくて食べきれなかった」

とうじしゃ しょくいん
「メリンダという当事者の職員がいた。

そうだん にゅうしょしせつ ほうもん
相談だけじゃなくて、入所施設に訪問したり
なかま かんが い
して仲間のことを考えてると言っていた」

クリスマス会

2006年12月20日(水)
Sound Restaurant Fall Live にて



X'mas Party

「かい」 続けても 普通の生活をしてほしいと思って、一生懸命治療や訓練に努力をしても、彼らに帰る場所は見つからなかつた。「たたかいで」は地域の中だ、今日から明日につながる日當性にこそと思い定めるうちに、夫は自分が手をこまぬいて見ているわけにはいかなくなつた。

今年のお正月は、なつかしい人から電話や手紙を多くいただいて、心うれしく過ごした。昨年末に『たたかいはいのち果てる日まで』（向井承子著）の復刻版が刊行（エンパワーメント研究所発行）されたお陰である。パンジーだより43号（オシッコの話）で一度だけ紹介したことがあるこの本は、私の夫である中新井邦夫（医師）の生きざまを縦糸に東大阪市療育センター設立に至る当事者、家族、専門家、行政など関係者のさまざま思いを織りこんだ「たたかい」の熱い記録

「たたかれたあかんなあ
けど何に対してなのかな」と
夫は2度強く思つたという
一度目は、戦争中、突然の
空爆でとびこんだ他家の防
空壕の中で、そして二度目
は当り前の生活が阻まれて
いる障害者と医師として出
逢つた時だ。どちらも人間
同志のせめぎ合いの中で、

である。1984年に新潮社から出版され、その後、筑摩書房で文庫化されたものすでに絶版となつていて、本が二十数年ぶりに復刻という形でよみがえつたのだから、私を含め周りもいささか興奮状態である。

の地域における暮らしを支えるシステムはどうあるべきか。自らの死に至る病をかえりみることもなく、その答を求め続けたひとりの医師の壮絶な生きざま」と書かれている。でも実際は緊急を要する施設として療

めて、心穏やかに読むことが出来た。決して「後の祭り」ではなかつたと思えるようになつたことがうれしい。この場を借りて向井承子さんに改めてお礼を申し上げたい。

恒例 ちよつといい話

自分を大切に してほしい！

八尾の事件から 考えたこと

見られたらつらい。

- ・Yさんのお母さんが「相手の人に何でお詫びをしたらい
いのか」と言っていた。お母さんはかわいそうに思えた。
・自分を大切にしてほしい。
人生が変わってしまうから。
腹が立つてもケガさせたらあ

なーってビックリした。
・Yくんをテレビ見て。
んが車で座って下向いて出
た。

「今後、職員や地域の人々に、
がなおらんかつたら罪が重く
なる。裁判所がどう言うか。
・子どもが治るかな。子ども
ことをつぐなつてほしい。

けなどを行い、それに基づいて劣った人たちを選別し、排除することである。

その使用者がどのような場面でその言葉を使用したかである。例えその相手が障害を持たない人であっても、その相手を非難、もしくは貶めるために比喩的に使用

差別表現を 考える

創思苑理事
楠 敏雄

これまで見てきたように差別とは、あるものを他のものと区別するためにそれが違ひに優劣の価値付

けなどを行い、それに基づいて劣つた人たちを選別し、排除することである。

ところで、時々マスコミ関係者などから「どんな言葉が差別語にあたるのですか?」と問われて、答えに窮することがある。もちろん長い歴史をとおして、特定の人々を貶めるものとして使用されてきた言葉は、今もなお存在し、時には差別の実態を固定化し、拡大することにさえなつていることも否定しがたい事実である。しかしながら、それらの「おずおずとした対応」を生み出した原因は、しばしば被差別者の側の「主観的抗議」と、使用する側の「過剰な反応」に由来してきたことも確かである。

ある言葉や表現を差別か否か、と規定する要件として考えられるのは、まず第一にその表現を用いた人の意図、つまりその人は対象者の尊厳を否定し傷つけることを意図して発言した場合である。障害者差別に限つて言えば、それは障害を持つ当事者に向けられた侮蔑的言葉であり、それらは無条件に「差別表現」として使用した側に根本的な反省と謝罪、さらには差別意識の変革を求めるのは、当然と言える。第二の要件は、

最後にしばしば論議となるのは、すでに日常的な用語として用いられる表現である。例を挙げると「時計が狂う」「盲目の恋」「こんな失敗をしてアホやなあ」などなどである。それらは相手を非難したり貶めたりするために用いられたとは言えないが、一方でマイナスのイメージを表現することに結びつくこともしばしばである。ただこれらは、基本的には「ケースバイケース」で検討を加え、対応するしかないのだが、率直に言つて私たち追求する側と使用する側とのコミュニケーションがきわめて不十分だったことは否めない。その結果が過度な「言葉狩り」や「禁句集」的な悪疫を生み出してしまったのではないか。

Yさんを知っている当事者の人たちがいます。その人達は、同じ障害を持つていると言うだけでなく、知っている人が起こした事件に、気持ちが大きくゆれ動きました。そこで、自分たちの気持ちを整理するために、話し合いを持ちました。

知的障害を持つ人たちに関わる私たちが、今後、どのような支援の質やネットワークを作ればよいのかを考える参考になればと思い、一部を紹介します。

- ・自分がYさんだったら、どんな気持ちですか？
- ・仲間がほしい
- ・競馬行こう、コンサート行こう。冗談交じりの話でも聞いてもらいたい。
- ・僕の立場やと、ちゃんとアドバイスを受けたい。あつたんかな？職員や仲間からYさんのその時の状態で、ぴたり見ておく時と、遠くからで良い時どがあると思う。
- 「知っている人の事件でしたよね？」

- ・Yさんにやめてくれって言って、Yさんを助ける。赤ちゃんも助ける。
- ・覆面バトカーに乗つてゐるのをみて。…こうやつて（肩をすくめて）乗つて運転手と助手席の人と。
- ・自分の人生はこれから仕事もいっぱいあるのに、投げてしまつたら。
- ・二度と繰り返さないでまし

これまで見てきたように、差別とは、あるものを他のものと区別するために、それが違ひに優劣の価値付

「八尾の事件をどう思いますか？」

「知つてゐる人の事件でしたよね？」

・自分の人生はこれから仕事もいっぱいあるのに、投げて

これまで見てきたように、差別とは、あるものを他のものと区別するためにそれ

一九九六年五月一日 第三種郵便物認可毎日発行 発行人＝関西障害者定期刊行物協会

大阪市城東区東中浜二—一〇—一三 緑橋グリーンハイツ1階

編集人＝クリエイティブハウス「パンジー」

東大阪市東鴻池町二—四—八 領価一〇〇円

エクセレントチョコ ギフトセット

大切な人への贈り物にぴったりの商品です。

4箱セット 2000円
6箱セット 3000円



ウフレ

白いウェハースに3種類のチョコをはさんでいます。くせになる食感！



.....800円

パウンドケーキとクッキーの詰め合わせ



ミックスクッキー
ごま・ココア・ピーナッツ・レーズンの4つの味。

パウンドケーキ
プレーン・フルーツ・紅茶の3種類があります。

ころころクッキー
たまごを使っていない、くるみたっぷりのクッキー

●3種類のセットから、お選びください。

- Aセット・プレーンパウンドと2種類のクッキー.....1200円
- Bセット・フルーツパウンドと2種類のクッキー.....1300円
- Cセット・紅茶パウンドと2種類のクッキー.....1300円

冬ギフト



※お電話・FAXでお申し込み下さい。
宅急便でお送りする場合の送料はお客様負担になりますのでご了承下さい。

手作りマフィン

新商品が続々登場！



お楽しみ2個セット 300円
お楽しみ4個セット 500円

うどん詰め合わせ



釜揚げセット 1,500円

さわやかな美味しさと食感を楽しむ本場讃岐うどん。

讃岐うどん 半生 (300g) 3袋
釜揚げうどんつゆストレーント (340ml) 1本



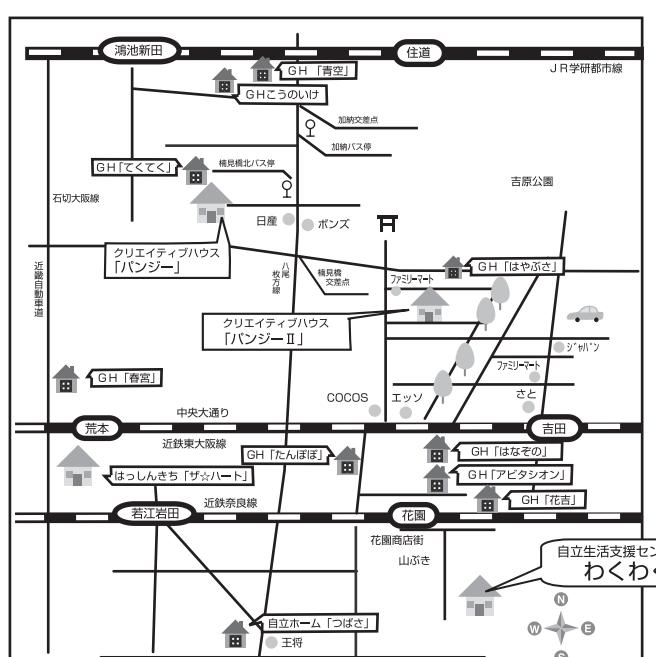
まるごと讃岐うどんセット 2,500円

本場の味をまるごと楽しめる高級うどんセットです。

讃岐うどん 半生 (300g) 5袋
釜揚げうどんつゆストレーント (340ml) 1本
生醤油うどんつゆストレーント (150ml) 1本

●ご注文・お問い合わせ

クリエイティブハウスパンジー
〒578-0973 東大阪市東鴻池町2-4-8
Tel 072-963-8837 Fax 072-963-8825



《お問い合わせ》

- クリエイティブハウス「パンジー」
東大阪市東鴻池町2丁目4-8
Tel 072-963-8818 Fax 072-963-8825
- クリエイティブハウス「パンジーII」
東大阪市中新開2-11-20
Tel 072-960-3610 Fax 072-960-3613
- 自立生活支援センター「わくわく」
東大阪市花園東町1丁目17-30
Tel 072-968-1556 Fax 072-968-1557
- はっしんきち ザ☆ハート
東大阪市荒本2049-4-101
Tel 06-6789-6637 Fax 06-6789-6649
- ホームページ／<http://www.pansy-net.or.jp>

パンジーでは、後援会員を募集しています

- | | | |
|-----------------------|-----|--------|
| 賛助会員 1口 | 1ヶ月 | 500円 |
| 会員 1口 | 1ヶ月 | 1,000円 |
| 特別会員 1口 | 1ヶ月 | 5,000円 |
| 郵便振替番号 00950-1-300551 | | |
| クリエイティブハウス「パンジー」 | | |

書き損じハガキ、
未使用切手を
送ってください！

ご家庭や会社などで書き損じのハガキ、スタンプを押していない切手など眠っていますか？
自立生活部門ではこれらを集めて活動資金にあてています。
ご協力をお願いします。

ご協力ありがとうございます

〈後援会費〉
庄野正隆、泉原寛康、尾崎文彦

〈カンパ・寄付をいただいた方〉
西村修一 泉原寛康、松野明子、松本朱實
善意銀行「チャリティ・サマーミュージックフェス
タ実行委員会」田口昭男 シャトレーゼ東花園店

〈書き損じはがきをお送りいただいた方〉
西田美知子 池田俊一 宮田隆志 田村崇

(敬称を略させていただきます)

みんなげんき No.7
さいわい徹(◎)

マフラー

